

地下水Q&A

地下水は、西条市に生きる私たちのライフライン。Q&Aで地下水のことを改めて知ろう！

Q1. 西条市で、生活に地下水を利用している人はどれくらいいるの？

A1. 市民の90%以上が生活に地下水を利用しています。

市民の約半分が利用している上水道の水源は、90%が地下水です。家に井戸がある人だけでなく、地下水は市民生活に欠かすことができないものです。



Q2. 地下水はどれくらいで私たちに届くの？

A2. 20年～60年かかるといわれています。

山で降った雨が地面に浸透し、地下水として私たちのもとに届くまで、場所によって異なりますが、長い年月がかかります。

Q3. 地下水は今後もずっと使えるの？

A3. みんなで守っていく必要があります。

西条市では、「西条市地下水の保全及び管理並びに適正な利用に関する条例」を2022年に定め、地域の地下水を「公水」＝「みんなのもの」と捉え、市民の地下水利用のルールを規範化し、地域で保全・管理していくという、「地域公水」の理念を盛り込みました。地下水を利用する私たちが、「使った地下水はきれいにして地下へ還す」「地下水を量・質の両面で育ててから使う」という「育水」の意識を持つことが大切です。市では定期的に地下水位・水質を調査し、異常がないかモニタリングしています。行政だけでできることには限りがあるため、地下水を守る市民一人ひとりのアクションがとても大切です。

リアルタイムの地下水位をチェックしてみよう！
地下水の状況に関心を持ち、節水等に取り組んでみませんか。



地下水位
確認サイト

市民みんなが主役で 西条の水を 守り育てよう



西条市地下水保全協議会 会長
京都府立大学 公共政策学部 教授
川勝 健志

西条の水を誰がどのように将来にわたって守り育てていくのか。その主役は、行政だけでなく、市民の皆さんです。地下水の管理者として一定の権限と責任を持つ行政の役割や科学的な知見を提供してくれる専門家の意見は重要です。しかし、皆さんにとって、西条の水は単に利用できれば良いというものではなく、市のシンボルである「うちぬき」を守るとともに、「おいしい水」と評されている水質を維持することではないでしょうか。

西条の水が10年後、20年後、さらにはその先どのような姿であってほしいのか、またそれを実現していく過程で水がどのように守られ、活用されることが皆さんの幸せにつながるのかは、市民の皆さんが集まり検討する中で初めて具体化されます。そうした「話し合いの場」となっているのが、西条市地下水保全協議会です。しかし、協議会だけでは参加者の幅は自ずと限られてしまいます。

今後は「地下水ラボ」のようなワークショップなど多様な参加の機会を創出し、市民の声を幅広く集め、「地域公水」の理念を実質化していく必要があります。「水の都・西条」の未来のために、皆さんの参加と協働が求められているのです。

未来につながる

おいしい水の 地下水

LOVE SAIJO
Action! SDGs
いっしょにやろや ちょっとずつ



西条の地下水を
もっと詳しく知るには
こちらから→



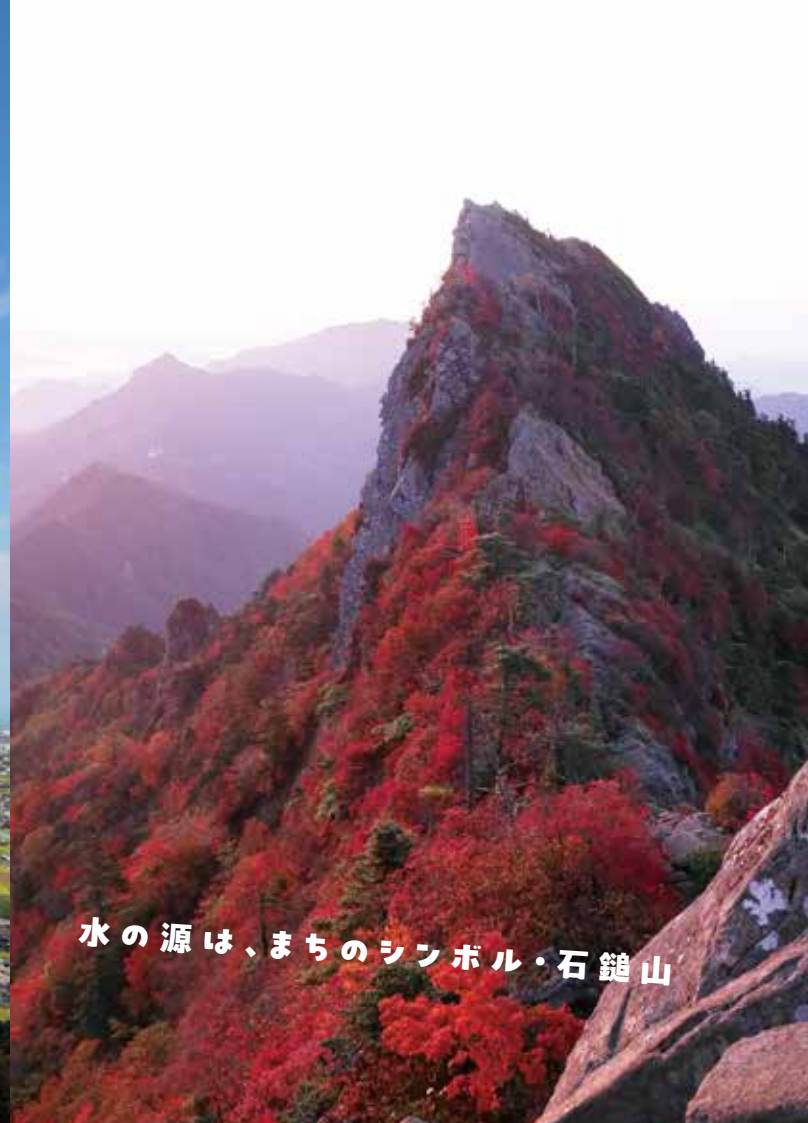
発行：西条市

〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷164番地 / 環境部 環境政策課 環境推進係 TEL:0897-56-5151
令和7年3月発行・掲載している情報やデータは発行当時のものです

LOVE SAIJO

西条市

山から海へ。かけがえのない風景



「水の都 西条」水の恵を感じる暮らし

水に恵まれた西条市。

西日本最高峰・石鎚山などの山々が水を土壌に蓄え、市内至る所で水が湧き出ています。

私たちが「うちぬき」と呼ぶこの地下水は、江戸時代から親しまれ

日本の「名水百選」にも選ばれています。

こんなにきれいでおいしい水はものづくりや食に活かされるとともに、

西条市のシンボルとなる風景。

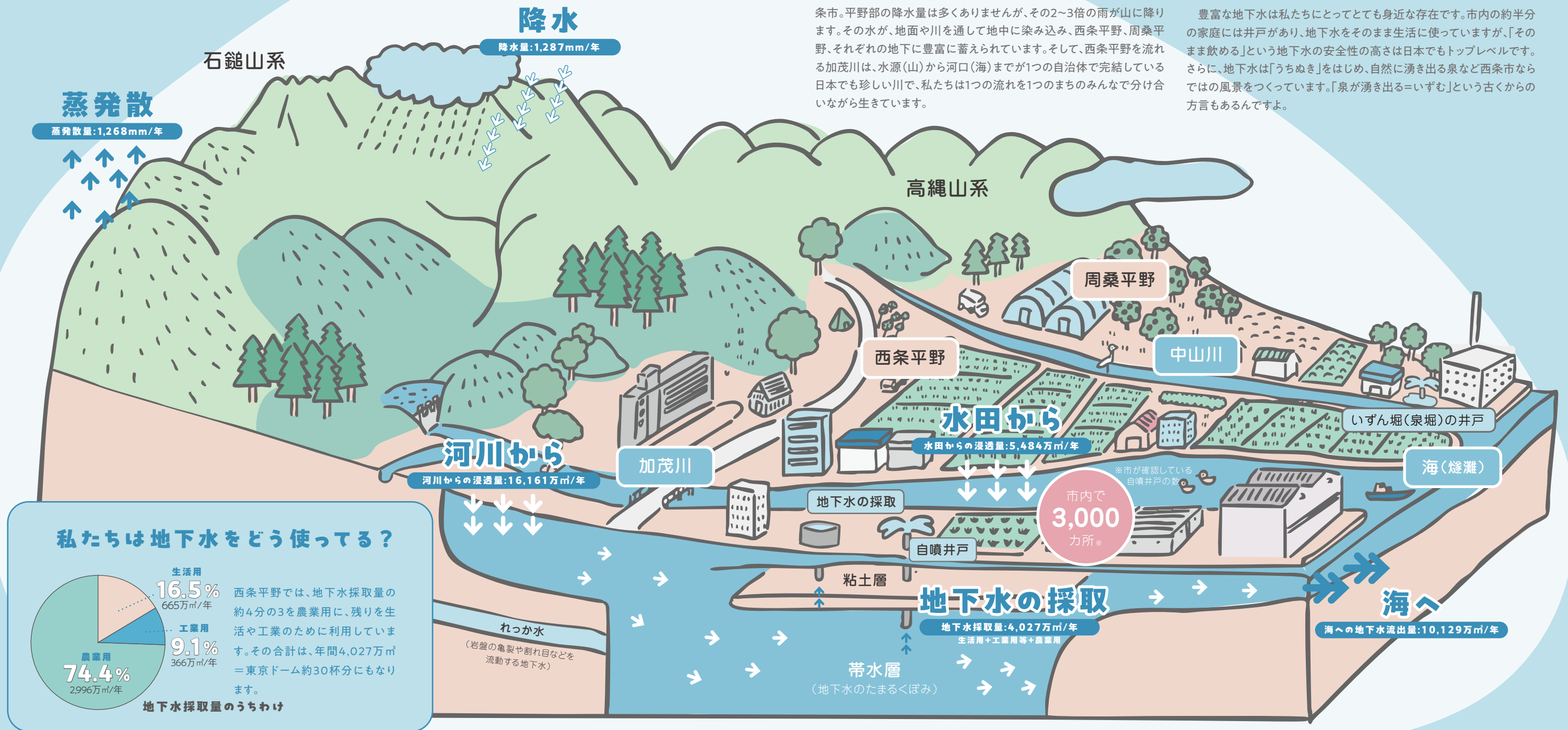
暮らしの中にあたりまえにある地下水は、西条市民の日々に欠かせないものです。

この冊子は「うちぬき」や地下水のいまを知り、未来につなぐための1冊です。

LOVE SAIJO



西条の地形と地下水のしくみ



なぜ「水の都」といわれるほど、西条は水に恵まれているの？

その答えは、西条独自の水環境と地形にあります。瀬戸内式気候の西条市。平野部の降水量は多くありませんが、その2～3倍の雨が山に降ります。その水が、地面や川を通して地中に染み込み、西条平野、周桑平野、それぞれの地下に豊富に蓄えられています。そして、西条平野を流れる加茂川は、水源(山)から河口(海)までが1つの自治体で完結している日本でも珍しい川で、私たちは1つの流れを1つのまちのみんなで分け合いながら生きています。

「いずんでいる」まちをいつまでも

豊富な地下水は私たちにとってとても身近な存在です。市内の約半分の家庭には井戸があり、地下水をそのまま生活に使っていますが、「そのまま飲める」という地下水の安全性の高さは日本でもトップレベルです。さらに、地下水は「うちぬき」をはじめ、自然に湧き出る泉など西条市ならではの風景をつくっています。「泉が湧き出る＝いずむ」という古くからの言葉もあるんですよ。

※数値は、西条平野(2007～2013)の平均で、「高瀬・徳増2019」より引用しています。

豊かな水環境だけど、いま、こんな問題も…

1. 一部の地域で「塩水化」が起きています

西条平野の沿岸の一部では、地下水の塩化物イオン濃度が水質基準値より高く、飲用に適さない「塩水化」した井戸が存在します。その原因は複合的なものと考えられていますが、一因として挙げられるのは農業用水として地下水をたくさん使っていること。田んぼでたくさん地下水を使うかんがい期(5月～9月)になると、地下水の水位が下がり、その結果、地下水が海水を押し戻す力が弱まって海水の侵入を許すことにより塩水化します。



2. 山に蓄えられる水の量が減っています

森林や田んぼなどは、雨や雪などを地下にしみこませ、地下水や川にゆっくりと供給する機能を持っています(水源涵養)。特に森林は「緑のダム」と呼ばれる働きをし、土壌に水を蓄え、大雨の時には急激な増水を抑えて洪水を防ぎます。西条市でも森林がその役割を果たしていますが、戦後急激に増え現在は放置されている広大な人工林の手入れ不足が原因で、山の保水力が減っています。水を守るためにも、間伐などの必要な森林整備を適切に実施し、健全な森林を育成することが必要です。



西条の水を未来へ。私たちにでき

まずは、水にふれて親しむ

うちぬきマップ



加茂川左岸うちぬき公園



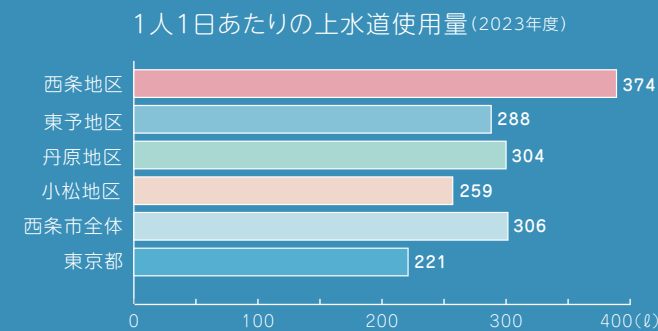
弘法水



新町川水系(アクアトピア水系)

ること

水を取りまく環境を知り、大切に使う



私たちがどのくらい水を使っているかを知ろう

まず現状から。西条市民の上水道使用量を見ると、どのエリアを見ても東京都を上回る結果になりました。西条地区では約2倍の水を使っています。当たり前に使っている水=限りある資源という視点を持つことが大事です。



生態系の豊かさを知ろう

水がきれいのおかげで、希少な生きものであるカジカ、カブトガニ、多様な野鳥が西条市に生息しています※10。生きものを観察し、彼らの生息地を保全することも、水を守ることに繋がります。



川の水を観察してみよう

川の水を気にして見てみると、雨が少ない時は水位が下がっていることや瀬切れ※₂を起こしていること、大雨の後は急に増水していることを発見できます。川の水が少なくなると地下水の量にも影響します。



水を大切にしよう



川をよごさず、きれいにしよう

川で遊んだ時のごみは持ち帰ること、川に洗剤などを流さないことを徹底しよう。自然は「来たときよりも美しく」が基本です。川や浜辺のゴミ拾いなどの活動に参加するのもおすすめ。



山の木を気にして見てみよう